京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價 ▲一枚金三錢▲一ヶ月金九十錢▲三ヶ月… ▲六ヶ月… ▲一ヶ年…
月曜日及び大祭日の翌日は休日(日刊)
廣告料 ▲五號活字十七字詰一行一圓金五十錢▲特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久靜一郎
發行所 京城西小門外 京城新報社 電話大三六番 振替口座…
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二一一番
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

咸南の鮮人慣習

咸鏡南道に於て慣習の著しく他と異なれりと思惟せらるるもの二三を擧ぐれば、第一、大小各開市日の商人中婦人の多きこと是なり就中穀物の仲買人小賣人等は婦人最も多きに居り又內地人居住地に來往して魚類蔬菜草花の類を賣る者は牛車に馬追に婦人の勞働することも他道に於て見るべからず從て女權頗く中流以下の輩に在りては往々夫が妻のために打擲せらるるが如き奇觀を呈する事あり、第二、概して咸鏡道は冠婚葬祭共に其式京畿に比して疎略なる他道にありては結婚當日新郎新婦共に冠禮を結髮に改むるの例なるも咸鏡道は新郎のみ當日結髮し新婦は數日の後に於て之れを爲す又婦が夫よりも若干年長なるは朝鮮普通の事たるが如きも咸鏡地方にありては六七歲の相違は通例にして甚しきは十三四歲の年長者あり是要するに少年の新郎を香餌として成年の婦女を迎へ之れをして家政を助けしむる卽ち經濟的關係より生ぜし弊風なりとす故に此年齡の相違より來る弊害名狀すべからざるものあり、第三郡外の墳墓を他郡又は他村に有する者若しくは自村に適當なる墓地なく依て他の地を買收若くは借用して新たに墳墓を作る者は其墳墓の保管料若干を其村に支拂ひ村は之れを共有財產に編入して而して該保管料の爲に永代展墓の禮をなすこれ宛かも內地の信徒が其寺院に豫め祠堂金を納付し死者の爲寺院をして永代忌日祭祀を執行せしむるの例に等しく是れ他道に其例なき美風なりとす、第四家屋は比較的材料の豐富なる爲南鮮に比して規模稍大にして淸潔なるが如し特に溫突室の上部には必らず方圓種々の形を爲せる小開閉窓を作り以て室內溫度の加減を自由ならしむるの設備は他道絕無の事にして確かに咸鏡道の特色なり唯炊竈を極めて大きく造り夜間其上に家族の多くが寢臥することを常とす是れ臟器沈滯の餘り地暖を貪るの弊習ならむも爲めに庖廚を汚すこと甚しく衞生上より見るに堪へざるものあり一般人民の性質は頑に角强勁にして亦た特別に見るが如き頑惰の風尠なく永興以北北靑以南の民は古來慓悍を以て名ありと雖も端源郡地方の人民は比較的溫良にして品性も亦甚しく陋劣ならず嗜好は他道と別に異なる所なし

●南浦金融概況

（同地）目下の金融狀況を聞くに大要左の如くなるが現今の狀況を述ぶるに當り先づ五月六月の概況を記述せむに金融狀況五月中同港の輸出貿易は空前の盛況を呈し其總數五十七萬圓に及び從つて例年なれば漸く沈滯に入るべき例なるも尙繁々として仕向口を見金融も繁忙の域を脫せず諸銀行の帳尻も先月に比して大差なし然りと雖も大体に於ては金融漸く緩和し來りたるを以て平穩なる回收を見六月に入るべし穀物集散狀況は輸出益々盛にして輸入雜貨も賣行至極圓滑なるを以て入港の各船は相應に荷を見貨物の集散極めて殷盛なり農業は兩毛潤澤なりしを以て植付も何等の故障なく終了し麥作又豫想以上の收穫なり工業は各礦山共に殖船の運きを待ちつゝあるの好況なり營業に關して昨今小仕掛なるも支那鹽の再製鹽を試みるもの漸々見受けられ實行至極好調也

与四郎

妙子の兄



「卑怯!!」

笑ひ乍ら力むで居る与四郎の顏を見上げて、笑つて居る妙子の手には何やらキラリと光る。

『卑怯だとも、熟知せる人の弱點に乘ずるなんて卑怯ぢやないか』と与四郎君は稍々眞面目である。

『世の中に何が卑怯だと云つても、熟知せる他人の弱點に乘じ或くは脅迫或くは威壓或くは恐喝或くは勝利を得んとする如きは最も卑怯だ、併し僕は間諜とか忍びの者とかは卑怯者の爲す事とは思はん夫れは彼れの使命だもの、之れに反して賽はるゝものが敵の甘言に乘せられて、已れに關放せられたる他の祕密者は靈靜を貫るの樣に至つては……』議論は妙に外れた。妙子はツと立ち上つた。

『与四郎さん!! 問題外よ』水晶の兎の文鎭が滾から亡る。

『問題外?』話の腰を折られた与四郎君は頗る妙な顏をする。

『卑怯つて云へば、貴君よ、妙の抵抗力の無いことを知つて居ながら腕力を揮うなんて卑怯ぢやなくつて? 他人の弱點に乘じて脅迫がましい事をするのは夫りや卑怯よ、其の無法な壓迫から遁れて試た妙は卑怯ぢやないワ』

『ソウ云つちや困る、僕は只其の一試みたんぢやないか卑怯つて譯ぢやないよ……困るナア誤解されちやア困るナア』男士憎け無ひ骨頂の顏をして居る

『誤解はしませんワ、妾も試みたのよ与四郎さん仲直りに好い物を差し上げますワ、先日から入來しやるのを待つて居たの、作成て置いて』棚の手文庫から取り出されたのは表はリボンの古の綴り合はし裏にフランチルを附けた團扇。

与四郎君は欣喜雀躍、歸るに臨んで茶の間に居た母を捉へて。

『全く妙さんは迂濶な人に嫁に遣るのは惜しいなア……イヤ、モウ運命の透視はしませんがね』

時事俳評

千春

△民團存廢問題　汐まかせ風まかせなり納涼船
△商議員運の暗鬪　ぬかづけば風か泣りけり神の前
△借款と日露抗議　素足では渡たれぬ橋や雲の峯
△鮮人觀光團參宮　炎天や田吾兵衛ども水喧嘩
△南大門驛の擴張　溫突の改築談や雨季上り
△日英同盟の繼續　千代かけて結ぶ手うれし苔淸水

◎新刊紹介

△精神修養（山水號）本號掲載の重要なるものは加藤咄堂氏「通俗敎育論」和田文學士「有馬の一夏」安藤鐵腸氏「夏の長山列島」國府犀東氏「淋澄懷かしの越知山」松崎子「山東眞足記」伊澤溫山氏「筑波詣で」山方香峯「支那の山水」百目木氏「夏の蒙古」渡邊海旭氏「無題山水」與謝野晶子女史の「川」等一として銷夏の讀物たらざるは莫し（一冊十五錢東京市淺草區橋場町百三番地精神修養社）
△東京經濟雜誌（千六百二號）社說「米價騰貴と農民の經濟」山本唯三郎氏「對淸政策管見」工業會議の「國有鐵道經營法の缺點」等精讀を要す（一冊十二錢東京市京橋區彈左衞門町經濟雜誌社）

大和

召使れ初

第百五回　黒法師



『勿論のこと』と佐五右衛門は云ひかけ『浪人なれど武士、左樣の口上聞く耳ない』

『た聞き入れないとあればそれまで』と佐十郎は悦と垂頭き、少時何事か考ねるやうに見ゐしが『私もこれまでは運ひ只今は主持、歷とした武士でござりまするで、父上た詞にも從ひ難ねまする』

彼が功名を願ふ利慾の前には、親もなく妹もなかりきもし彼れに千石二千石の知行に替わて、汝の父を殺し來れといふものあらば、彼は必ず佐五右衛門の胸頭へ皓々たる刃を突きつけたるかも知れず、佐五右衛門は血走る眼にきつと佐十郎を睨みてありき

『私より申上げる事、父上れ聞き入れないとなれば、强ては願ひませぬ、强て願ふこと致しませぬ』と云ひながら德兵衛に顏を向けて『さらば德兵衛、そなたに所望の一儀がある』

『へへ』と德兵衛は眉を顰めて『私へ御所望でござりまするとは……』

『いかにもぢや』と佐十郎は大きく頷き『只今までは妹へ遠慮父上母上へ遠慮致すに由つて、何事も云はずにあつたが、そなた家召使ひれ察の事忘れはすまいの』

『忘れはいたしませぬ、只今ではれ殿樣へさし上げ、日ごと忠勤を勵みある旨絕わず噂に聞き及び、緣に繋がる私まで此上なく歡び居るでござります』

『ねゝ、それを申すでない、先般ろなた家にて對面、何かと物語り致す中、彼の事忘却、拙者を地上へ投げ付けた、彼の事を忘れはすまい』

『存じてござりますも、私依估贔負は致しませぬが、彼の時の事情、あなた樣ちと御無理ななされ方でござりましたか』

と……』

『假へ事情は何うあらうとも、庭前へ投げ付けられた口惜しさは忘れぬ、當時拙者は浪人れ察背後はれ年寄國東殿あらせに由つて、無念を忍び、其まゝに致し置いたが、只今にては同家中、奥表とは異つても、御縮兩番勢力はきつと及ぶ、女は口に締りないで、何事を口走らうかも知れぬ、萬々一れ察口より拙者不覺の一伍一什れ奥に取沙汰れ相成つては、役儀の面立ち兼ぬるで、うれの圖處ない圖、れ察を受取り處なる恨み晴らしたく存ずる、德兵衛渡しくれやうの、正木佐十郎改めて申し入れる、れ同罪れど願ふでござります』

『察を受取り、當と刎敗の仕方もあるで是が非でも渡し與れやれ、れ察は其方親代りとなり、た進ぞの手許へさし上げたといふでないか』

『旦那樣』と德兵衛は返答の爲やうもなく佐五右衛門を見返り『君旦那樣から斯樣のれ詞、てりやどうしたものでござりませうな』

『捨て置け〜 畜生同然の斜は相手に致すな』

『されど只今仰せ、反古にも致されませぬ』と德兵衛は困じ果て、彼の時、奥樣れ立ち合ひ、君旦那樣御納得あるを願ふでござります』



れる、れ察を渡しくれやうの』

『た詞ではござりまするが、只今申し上げます通り、れ察どの只今では旦那樣れ召使ひでござりまするで、私の力に及び難い儀もござりまする、殊には日頃れ心懸け、あなた樣れ噂な世口外致させう筈ござりませぬ、これは此まゝれ捨て置きなされて然るべきかと存じまするにても御納得あらせられねば私より詫びた察どのに爲り替り、いかやうともれ詫致すゝで、れ怒しを願ひ上げまする、折入つてれ怒しを願ひ上げまする』

『其方より詫を聞かうとは思はぬ、れ

『まことれの』とれ力は悲しげに進み出で『佐十郎は何故ろの樣であらう、何故ろの樣に物の道理を心得ぬであらうのう』

『私は意地の外に何にもござりませぬ、彼の時の恨み晴らさすば、武士となつた甲斐ござりませぬ』佐十郎は動くさま無し

京城新報

土地投機熱
警戒を要す

母國より半島に移住せる者一として目的を有せざるは莫し、商工業によつて發達を遂げむとする者、或は農業を以て根柢の基礎を固めむとする者、又は資金の融通を業とせむとする者等、それ〜〜經路を異にせるも、其成功を收めむとするに於ては各々異る所非ず。殊に內地人多數團聚して現在に其形を成せるの地は、多く商工業を目的として來り人々によりて其職を創し、漸次今日の隆盛を致せしものなるを以て、今後にあつても商工業を本位として益々進展を期せざる可からず、殖民地經營の要訣は始終一貫其方針を逸へざるに在り、移住者たるもの此に注意を缺くこと無きを要す。然るに方今一種の金の奇利を夢みつゝ投機的土地賣買を目的とせる者即ち土地熱に浮かされたる者漸々として現出せるは、實に內地人の事業界に一大惡影響を及ぼさんとするものなり、吾人憂へざらむと欲するも能はず。

內地人の半島に於ける土地買收は、舊制度の不完全にして土地所有權の移轉を證するにも偽造變造の行はれ易き文記一枚を手に入るれば足れりとせし韓國時代より行はれ、從つて其當時の土地買收は性質上冒險たるを免かれざりしなり。如斯內地人が危險を冒してまでも半島の土地に戀々たるに至りしものは、吾人今更敢てするまでも無く、半島の進化に顧みて、其都會たると地方たるに論なく將來必ず有望なるを認められしに因る。吾人は斯る眞面目なる着眼より土地を所有し之を以て生產的資す事業を大ならしめむとする目的を抱ける者は極めて歡迎するも、目的茲に存せずして、唯土地價格の高下にのみ意を傾注し所謂思惑賣買によつて利益を獲得せむとするが如きは、寧ろ有害無益の事業として、之が排斥に努めずんばあらず。

そも、半島の土地熱は日露戰役中に土地價格の昂騰せしに因て起り、戰捷と同一高度を以て進み、特に都會地にあつて甚だしきを示し、內地人は此際を逸して復致富の機會あらずとなし、競ふて土地の思惑買をなし、中には甚底を掃ふも敢て辭せざる者さへありしが戰後の經濟界は彼等投機的資本をして有効のものたらしめず、爲めに戰爭終局前に都合能く買收地を他に轉賣せしものは悔を他日に貽さゞりしも、轉賣の機を逸せし者に至つては、土地の處分に窮し剩さへ資金の悉くを擧げて之に投資しをれるが爲に、他に有益なる[illegible]着手するを得ず終に[illegible]倒れる者さへありし[illegible]現はれし事實にして[illegible]者を目擊せし者は互[illegible]覆轍を踏むなからむ[illegible]土地投資を危險なり[illegible]普及し茲に土地熱の[illegible]吾人は此事實に鑑み、[illegible]なく、地方在住者と[illegible]無きものに對して資[illegible]ら死地に陷らむとし[illegible]闘じく、其危險實に[illegible]のあるを恐ふ、而か[illegible]地熱の勃興を見むと[illegible]の原因を尋ねむか。[illegible]せられて以來、母國[illegible]の土地其郡部を通じ[illegible]と、之を殊努戒は價[illegible]りも優れりとなし、[illegible]る者あり、又は着手[illegible]る等、自然地價の騰[illegible]京元三南兩鐵道及び[illegible]は、其沿線或は附近[illegible]懸はしめ、終に此機[illegible]轉ぜむとするの安念[illegible]んとするも決して躍り無[illegible]現今土地賣買價格は[illegible]國制の騰貴を示しつ[illegible]く人爲的價格の含ま[illegible]思はざるべからず。[illegible]島の地價は關稅撤廢[illegible]實際上の昂騰を見る[illegible]併合と同時に關稅の[illegible]實上土地に及ぼす利[illegible]騰貴となるべきも、[illegible]の出づべきを豫想し[illegible]せるものは、其價格[illegible]能はざるは火を睹る[illegible]す、殊に母國の金融[illegible]談は投機的土地賣買[illegible]所あらむも、金融機[illegible]日の如く半島に放資[illegible]するものならず、延[illegible]現在の如くならざる[illegible]る可からず、一朝斯[illegible]か、眞面目なる投資[illegible]奇利を博せむとの安[illegible]は、日露戰爭當時に[illegible]命に陷るに到らむ、[illegible]地熱に浮かされをる[illegible]併せて世上一般の[illegible]得ず。若し夫れ吾人の[illegible]、之を銀行の土地に[illegible]見よ、銀行が如何に[illegible]るかは實價の四掛け[illegible]擔保限度となしをる[illegible]るに足る。金融機關としての銀行が土地に對する觀念如此にも拘はらず、有限の資金を皆土地に投せむとするは薄資者の爲す可き事にあらざる也。

東京電報

▲**都督歐米差遣** 大島關東都督は軍政視察の爲め歐米差遣の噂ありしが昨十七日御用有之歐米各國に被差遣との辭令ありたり

▲**兩宮の謝電** 王世子殿下昨十七日告別謁見の際 天皇陛下には文房具入銀行用鞄、膝掛、ハンカチーフ一打を 皇后陛下には洋服地鑑遠鏡を下賜されたる旨昌德慶熙兩宮に電報ありたるを以て兩宮よりは懇篤なる謝電を發し宮內大臣に執奏方を依賴されたりと

▲**閔長官東上** 閔李王職長官は今十八日左の如く出京を命ぜられたり

▲**王世子の告別** 王世子殿下は廿日東京出發北陸地方旅行に就き昨十七日兩陛下に告別謁見後皇太子殿下各皇族殿下を訪問御暇乞を述べられたり

雜報

●**商議役員決定** 日本人商業會議所副會頭以下役員選擧は十七日午後八時半頃會頭出席議員廿七名副會頭以下常議員特別議員の選擧を行ひ開票の結果副會頭中村再造氏十點釘本藤次郎氏六點秋吉富太郎氏五點深見淸氏四點得票中村氏當選常議員は進辰馬氏十八點增田三穗氏十六點小林藤右衛門氏十三點執行猪太郎氏同點近藤佐五郎大橋商三郎十一點の得票にて六氏當選近藤松田兩氏を會計委員に其の他の特別議員選擧に移り開票の結果韓國銀行(市原)第一銀行(竹山)十八銀行(足立)三井物產(淺野)東拓會社(林)殖產局長(菊地)氏及和田常一七氏に決定午後十時半閉會したり

●**山口中村兩氏辭表** 商業會議所會頭山口太兵衛副會頭中村再造兩氏は會議所議員辭表を提出せしに付會議所にては十七日常議員會を開き十九日午前十時より會議所にて兩氏辭表採否の件に付て總會を開く

●**鐵道水道給水** 給水斷絕後の應急工事は新龍山なる鐵道局水道配水池より舊龍山元町の水道管へ鐵管を接續して京城へ給水する事となり十七日午后十二時迄に十[illegible]二驛間十二時後四輛の鐵管を東大門水道倉庫より輸送し極力敷設に從事し居れるが千五百尺中十八日朝迄に五百尺の敷設を終りたるも鐵管不足なるを以て仁川水道事務所へ交涉し鐵管の補充を乞ひたるに十八日午前八時に至り輸送し來りたるを以て引續き全力を注いで敷設に從事し居れるが尙鐵管不足なるを以て平壤水道事務所へ補充方交涉したるが十八日午後六時に輸送し來る筈なれば十九日朝迄には給水の運びに至るべしと

●**南山水道給水** 民團にては南山京城ホテルの噴水に使用し居りし南山水道を給水すべく協議中の處京城ホテル下に水栓を開き今朝より隨意市民の汲むに任す事となしたり

●**本水道通水期** 京城の水道は十七日午後工夫をして鐵管故障の個所へ潛水せしめたるに濁流激しき爲め探索は不能なるも多分鐵管破裂には非ざるべく水勢に壓せられて繼目に故障を生じ居る模樣なれば目下五六尺も浸水を減じたるを以て排水工事を行ひ然る後修理する豫定なりと尙修理は十時間內外にて出來る由なるも排水の時日は豫測し難しとは云へば十九日迄には通水六ケ敷かるべしと

●**農作前後策** 今回の被害 降雨に於て農作物の被害ありしは全羅北道を最とし洛東江附近其慘なるか全北の如きは浸水一萬餘町步に亙り約八割方は到底救濟の見込なき由なれば其前後策として稻の株分法を行ふか又は蕎麥を植付くるかの外なし目下頻りに排水に力めつゝありと云ふ

●**裁判所建築狀況** 各裁判所の建物中地方裁判所は既に新築を終り其他は大概朝鮮家屋を增築又は修築して使用し居れるが不便尠なからざるに依り多くの區裁判所は目下新築又は增築等爲しつゝありて仁川外二十二區裁判所は新築し開城外二十三ケ所は朝鮮家屋を增築し水原外二十一ケ所は假廳舍增築の筈

●**定例長官會議** 十八日午前九時より總督府に於て定例長官會議を開き寺內總督山縣政務總監を始め各部長官明石總長俵副總裁小城長官代理列席水害に關する善後策に付協議する處あり正午散會したり

●**總長告諭配布** 警務總監部にては水道上水に故障を生じ十七日より斷水し井水を使用するに就き昨紙所報の十四項に涉る衞生注意の告諭を日鮮文に印刷し十七日より十八日にかけ非番巡查を召集し京城龍山の內地人及朝鮮人の各戶に全部配布したり尙は總監部は各警察署に命じて管內井水の檢查を勵行し不良井は全部飲用を禁じたり

●**卒業生就職別** 內務部調查に係る本年三月官立法學校、漢城師範學校、漢城外國語學校、仁川實業學校、漢城高等學校、漢城高等女學校等の卒業生總數二百九十四名なるが右卒業生の就職及志望別により分類したる就職及他校入學生徒數を聞くに官公吏七十三人(但し雇員を含む)敎員百〇一人銀行及會社員八人他校入學者六十五人內地留學生二人農業從事一人商業從事十九人其の他實務從事九人未定十六人等なりと

●**密漁船の減少** 稅關所屬巡邏船第四、第五、第六ノ三隻が先月中捕獲したる密漁船の總數は合計十五隻にして右の內第四號艇は椎岩浦附近に在り主として防疫事務に從事し傍ら密漁船の監視任務に服し第五第六の二隻は交代して斷へず其根據地より東浦及何日里浦兩監視、署管內の沿岸に巡邏し專ら密漁の取締に任し居りしが同月は例年同方面に於ける鰕漁の盛漁期なるにも拘はらず僅に十五隻にして之を前年の同期の百五十七隻に比すれば十分の一にも足らず此狀況より推せば密漁船は遠からず跡を絕つに至るべしと

●**朝鮮生牛移出と商人** 生牛賣買は內地移出を目的とす其販賣先なる播州又は尾道筑前地方より牛商來り取引をなすを例とす又釜山港に於ける移出商は大邱金泉慶山蔚山東萊釜山鎭の各方面より買取り來りて之か賣渡をなすもの

▲賣買の方法 にして或は汽車積となし若は徒行陸送となす以上の外遠く京城附近の方面よりも買取ることあれとも京城方面の牛は其形体大に過ぎ耕作用に適せざるを以て多くは之れを望まさる傾向ありとす其運賃は汽車積の場合には京城釜山間大六圓小三圓なれども汽車輸送中は食物を給與せざるを以て牛を疲勞せしむること大なるより近距離の場合には徒行陸送するもの多しとす徒行陸送の場合は大邱附近より約五日間を以て到着することを得然れども釜山より下關迄の間に於て檢疫船積等の爲に牛を疲勞せしめ著しく其身体を衰弱せしむることあり移出に要する諸經費は原價約三十圓の牛に對し市場稅陸送賃繫留料關稅帆船運賃等合計十五圓を要するを以て到着地に至りては其賣買價格約五十圓に達することあり

●**道長官の視察** 檜垣道長官は十八日午前六時より警務總監部衞生課時枝警視同伴の下當地水道水源地なる纛島及附近の水害狀況を視察したり

●**十八日の天候** 京城測候所着電十八日の各地天候を聞くに平壤及元山は豪雨釜山地方及南滿地方は曇天なりと

●**李王と圖書館** 李王殿下は今回京城圖書館に對し金百五十圓を下賜せられたりと云ふ因みに同館は元京城文庫と稱せしを改稱せしもの[illegible]次第從來京城商業會議所內にありし同文庫の書籍全部を該館に移し京城圖書館として近々開館すべしと云ふ

●**土地調查員募集** 土地調查局の土地調查員養成所にては昨今生徒募集中なるが京城に於ける出願者は千二百余名に達し內受驗者八百七十名去る十五日數學の試驗をなし合格者より更に十九日第二回學術試驗をなし次に體格檢查に合格したるものを採用する筈なるが平壤に於ても受驗者百九十余名あり大邱も殆んど同樣にして三所の合格者中より必要の人員を採用する筈なりと云ふ

●**神習敎神誠敎會** 神習敎大敎正高畑廉長より豫て申請中なりし鮮人に神道布敎を目的とせる神習敎神誠敎會は十三日付を以て總督府より認可ありたりと

●**今後の天候** 本月六日以降低氣壓の往來頻々にして所謂雨季の特兆を呈し降雨十數日に涉り又十六日渤海に來りし低氣壓は東北東に進み中部以北は其影響を蒙り風雨の所多し然れども今他に續行低氣壓現出せざれば稍天候恢復の兆あれども永續せざるべし而して近年中十日以上雨の降りきる日は左の四回にして四十一年の四百九十六粍を最とし本年之れに次げり又古記錄に徵する所に依れば一日にして五百粍に達せしことありしと云ふ(十七日京城測候所報)

年	始月日	終月日始	降水量(粍)
四十一年	七月十九日	十四日間	四九六、〇
四十二年	七月十一日	十二日間	二四一、二
同年	七月廿四日	十日間	四三、七
四十四年	七月六日	十二日間	一八〇、三

●**閔氏東上用務** 閔李王職長官は別項東電所報の如く東上を命ぜられたるが其用務に就き貴族側にては今秋李王殿下御東上の豫定に就き其準備に關し宮內省及び寺內總督と打合せの爲めなりと觀測し居れるが李王家職員の語る所に依れば閔長官の東上は李王世子暑中問安の爲めにし初て最王世子北陸旅行前に東上する筈なりしも都合に依り御旅行後に延期したる次第にして別に何等重大用務を帶びずと因に閔長官の隨員は事務官金寅完に決せりと

●**京釜線開通** 京釜線は改修工事意外に進捗し十七日夜行列車より開通したるが十七日夜釜山驛十一時發の列車は延着して十八日午後十二時三十分南大門驛に着せり尙ほ馬山湖南線は今尙は不通なりと

●**馬山線開通期** 洛東江增水の爲め不通となりし馬山線は破損の個所多きを以て復舊工事は來る二十日朝迄要すべしと云ふ

●**各地水害公報** 平安南道成川附近八尺五寸平壤十二尺の增水あり警戒中四十二年の洪水は成川三十尺平壤二十六尺なりし(十七日午後九時發)▲平壤二十尺增水にて多少浸水家屋あるも損害少なし只今雨烈しく水勢加はりつゝあり警戒に力む(十八日午前三時發)▲錦江公州附近各渡船場は郡廳附近に限り辛じて渡船するに至れり鳥致院街道の渡船は本日午後一般の渡船を開く(但一回約一時間を要す▲鳥致院及江景に於て鮮人男一溺死の報あり水は各地共も漸次減水しつゝあり(十七日午後十二時)▲京元鐵道西氷庫松葉線より南端漢江沿岸の屬地に布設したるパラス線一哩十五鎖は十六日殆んど激浪の爲め破損せり(龍山分隊長)▲漢江十八日午前八時增水二十二尺五寸漸次減退の模樣なりし之れまでに於ける內地人浸水家屋五十七戶鮮人八百二十七戶あり(十八日午前八時發)▲漢江の增水は漸次減退し今十八日午前八時鷺梁津渡船場は平水より十九尺五寸の增水なり(十八日午前九時發)▲十一日以來の豪雨の爲め京義鐵道加平郡渭平郡は六尺增水し淸平川里附近の橋梁流失殆んど交通杜絕狀況なりしが十二日よりは舟を以て人馬の交通を行ひつゝあるも尙は增水せば交通杜絕するならん被害に付ては取調中(十七日發)

●**平壤の水害** 十八日平安南道長官より寺內總督に達したる電報によれば平壤地方は昨夜來の豪雨にて大同江は二十四尺增水尙は增水の模樣あり江岸家屋浸水し今朝より消防警察全力を盡しつゝあり尙は鎭南浦は未だ被害なし

●**仁川婦人會例會** 十九日午後二時より仁川山手町日本メソヂスト仁川婦人會例會を開き矢崎夫人の講話有筈

●**武藤事務官視察** 內務部地方局事務官武藤文吾氏は昨夜發濟州及忠淸北道太田、公州の各地水害視察として出張したるが聞く處に依れば今回の水害にて忠淸南道管內に於ける各道路は殆んど破壞し盡し橋梁も全部流失し剩へ住民は飢餓に瀕しつゝあるを以て之れが實狀視察の上特に救濟工事を行はんが爲めなりと云ふ

●**土地調查局員の出張** 土地調查局監查官牧濱氏は十八日出發約二週間の豫定にて出張したるが藤川度支部書記官も土地調查の用務を帶び[illegible]文鎭水原及大邱地方へ一週間の豫定にて出張すべしと云ふ

●**熊谷平壤民長出發** 平壤民長熊谷直亮氏は愈々十九日朝當地出發赴任す

●**韓國銀行券發行高週報**

一 銀行券總發行平均高(自七月八日 至七月十五日)	二一、九七七、六〇〇
正貨準備	七、八〇七、九二七
保證準備	一四、一六七、六七三

▲**京城手形交換高**▼

月日	金高	枚數
七月十八日	一八五、三六四、三七〇	六三七

▲**治外法權**▼

▲我京城とは[illegible]剛築の、彼の長身の、キチナアー英元帥が、過日來の噂の如く、埃及駐在の總領事になつた、由來駐埃英總領事は總理事官を兼ねる、元帥今後の經綸は大に觀目に値ひす▲ソレは扨置き、キチナア元帥今度の拜命は、我官界消流の眼を以て見れば、實に破天荒だ、何となれば、總領事の官と云へば、我國にしては彼る高等官三等の一奏任の役で、此一奏任の役に、親任官なる陸軍元帥が當りし例は絕体にないからである▲併し實際を云へば當人にして仕事さへ出來れば、元帥が總領事になるはオロカ、後藤男が[illegible]長に、[illegible]が[illegible]務官に、寺內伯が[illegible]になつたとてチツトも差支はない、困るに邦人の常として決してキチナアーの眞似はしない▲思ふに英人は仕事本位仕事さへ出來れば官等なぞは問題はない之に反して邦人からは封建の弊未だ脫けず、總てが人本位、官等本位で、仕事のことは問はない▲日英國力の相違其原因は仕事を本位とすると然らざるとにある、明治も既に四十四年だ、好人たる者國力の充實發展を思はゞ、須らく同盟國人の仕事本位に倣つて而るべしだ▲度支部當局の配慮で、遲々沿岸航路の統一が出來ソウだとは結構な事だ、而るに航路補助金も確定せず、從つて會社の組織もイツか明かならざる今日に於て、大池某其他が自家の古船をばコツ高く新設會社へ押附けんと目論で居るとの噂がある、併し之は噂だ、大池辯はマサカにソンナ事はすまい▲隨分降つたが、低氣壓は去らぬ、去らぬとすれば、まだ降るものと見ねる、雨と相撲、每年の事だが勸進元に對しては氣の毒のことだ▲此頃の鬱陶しさを忘れんものと、記者一日某所の某室に入つて苦茗を煮る、壁間揭ぐるところ故伊藤公の題字、曰く「堂々王者師」アー胸がスイタ。

京城藝妓の半生
花月樓 勝利（二）

如何に何う思つた所で肝腎な玉が居ないのだから小泉も斷念せざるを得ない、況んや振られても〜諦められぬと云ふ程に惚れて居るのでないもの、身を察して居ると二十日餘りで切れると云ふもなく小泉とは切れた、二十四の十一月廢業して實父と共に吉原の入口で

ビーヤホールを開業

した尻押の安田さんなることは勿論である、吉原の入口でビーヤホールを開業したことは事實である相だが其入口が判然しない、彼の才人福地源一郎君が一代の恥を書き殘した春廼正浪漸樓、春信先遊所街燈影（と記臆す）を刻したる所謂大門の內の夫れなら松本瀬次郎の經營と承知する、と安田さんは松本さんの聞き違ひかしら、どうすると夫れは大阪樓？の主人だから、ハテ可笑しいと首を捻るにも當るまい、と云ふのは此の安田は翌年の五月失敗して渡米したと云ふのだからね、元來が

藝妓の商法後見が無くて立ち行くものに非ず三十九年の十二月には又候元の藝妓となるより他に手段が無い迄に窮つて終つた、尤も其の當時或る米國人が世話をしたいと云ふのがあつたが彼れの氣性として且つは張と意地で立つ場所柄左樣も成らず斷然刎ねた時も時

仁川の淺岡の主人が藝妓を抱ねに潜京中であつたが之れ幸程よく契約が調ふて其所から左褄を取る事になつた、吉原藝妓の仁川落、確に

或る意味に於ける墮落である、仁川に於て第一番に御贔負になつたのが宅合名會社の支配人

青木一葉君次が**藤木利右衛門**君であつた、人間と云ふものは妙なもので買物買物の藝妓さへ贔負にするとなると自分一人の者にしなくなる、**變な關係は無い**にしても、青木君と藤木君は此の意味からして**關係競爭**に及んだのだ相だ、其處で記者は一つの興を乂ひ必要を認める、と云ふのは彼れ勝利は如何にして斯く特別の客筋を取り得るかと云ふことだ、藝が巧手だから……は嘘だ眞面目に唄でも謠でも聽いてと云ふ丸客樣が左樣澤山あるものでない、とするると何んだらう、實は何んでもない彼れは

口舌に妙を得て居る相だ

れ里は手はれぬ者である理、斯くしてる間に此の三巴の中へ一塵がせと轉更承知で飛込んだ惡顧者がある、夫れが女を操るに妙を得たる好男子英米

煙草會社の石井君だ、腕に撚を掛けてチヨイと手を出した、スルト勝利程の豪傑が手もなくチヨイと引つ羅つた石井君の**手腕の非凡**なる事は此れに徵して知るべしであらう

●踏み迷ふ戀の横路

▽雨の夜や小鈴飛込む溝の音

其の母一夜蜂鬪を夢て孕る事あり、月滿ちて產み落しゝは丸の見なりしが其の產聲も他に異りて「ヒヤデモヒヤデモ」と叫びしと傳へらるゝ京城券番の呑助拍子小鈴の許へ去る十六日の夜

吉野町（三坂通り）の吾妻より電話にて直ぐ來て下さいた客はれ馴染の山石た、と通話あり小鈴三味線も取り敢へず車を急がせ駆け附けたり元より親類變際の他人らしうピンシャンと云ふ交情でなければ波風も起たず三味線の音も起てず尤も起て如にも持つて行つて居られは其心配もなく稍々ニヂャ〜ギチ〜と鳥モチが頭髮に着いた如にベタ〜した結局の大詰が何處か閑靜な所は無いかと成つたりけり凡そ世の中に此れ程馬鹿氣た事があらうか藝妓を伴れて閑靜を望むとは、と野暮は禁物として夫れならば龍山

桃山の桃雲樓と屈强一と夜も更けたり人力車にては行〜先きを嗅き附けらるゝ恐もあり且つは戀は辛氣なものとは昔からの通り相場なるのみか、は少々の辛棒にて人力車賃も助かる理由なりと二人手と手を相合傘蛙の鳴き聲のコロ〜ゴロ〜と人力車の音に見立てゝ練兵場を橫斷つたり、と書くと至極無事だが前へ先へと氣を取られた小鈴は足踏み辷らして**ドブン**

と溝に飛込んだるは持井精米所の橫、何んで間が惡んでしよう足袋も着衣も濡茶〜、然りながら夫れもこれも皆主の爲めサッサ白足袋も着物も……着物は一ダ少々入用ながら足袋は三十八錢の加かも一遍西洋洗濯に掛つたものなり氣前を見せるは此の時とと惜し氣もなくポンと手の屆かない所へ抛つて來寬る電車に飛び乘つて印刷局手前よりシト〜と降る雨を凌いで桃雲樓にシケ込んで以來**十八日**まで歸らうとも云はず至極閑靜に**フヤケ**られる丈けフヤケて居るとは知らぬ山石さんの奧さん血眼になつて探し回つて御座るオイ小鈴此界は能度れ前の身に報うよ、惡い事は云はないから少しは後世も考へろ

●生命を貰つた禮狀

▽安く使はれたれ禮

雇人が主人を殺害するに先き立ち主人及女將に遺書を寫し殺害の目的を達し縊死したる事件あり茨城縣那珂郡石神村字石神十七番地生れ渡邊龜次郎（三七）は昨年三月より開城郡北部西城架里居住土木請負業丸山善太郎方へ雇れ石工職を爲し居りたるに給料及仕事向きに關し主人善太郎が苛酷なりとて紛議を釀し遂に同家を解雇せられしより憤怒の餘り獵銃を以て善太郎を射擊即死せしめ直ちに逃走し附近の山中にて縊死せしが遺書左の如し

遺書

明治四十三年三月より同四十四年六月迄館くも私事を一ヶ月給料ワツカ八圓にて使ひ誠に有難く候御禮として命を頂戴致し候間不惡御承知被下度候

七月五日　渡邊龜吉

丸山御內儀樣

禮狀

明治四十三年三月より四十四年六月迄館くも下擔を一ヶ月ワツカ八圓にて御使用致し其の御禮として命を頂戴致し難有御禮申上候

七月五日　渡邊龜吉

丸山善太郎樣

●赤痢と腸チブス

▽各個人の注意肝要

原籍福島縣相馬郡飯豐村大字柏崎百二十二番地當時龍山三坂通り衞戍監獄第七號官舍看守遠藤彥治二男晴男（當五年）は去る十五日より龍山元町四丁目藤澤新八郎（三三）は去る十二日より何れも赤痢病に罹り又龍山元町三丁目四十八番地丹波屋吉方佐藤登（三三）去る十五日より腸窒扶斯に罹り三名共同地靑坡病院へ收容せられたり

●出水と溺死

原籍江原道陽城郡玉斗里統戶不明當時龍山西桃花洞內契三十一統八戶朱永須方中居人夫業金敬三（四九）は漢江にて溺死七月十八日午前六時發見せり死後十六時間經過せしものゝ如く原因は薪木を拾取せんとて誤つて舟より轉落せしものなりと又住所氏名身分職業不明男三十年位の者の溺死體麻浦にて發見せり死後少なくとも二十四時間經過せしものゝ如し此者は漢江上流にて溺死水流に從ひて流下し發見の場所に漂着したるものなりと云ふ

●浮浪犯人の餘罪

原籍兵庫縣川邊郡川西村生當時住所不定田中和四郎（三二）は去る六日仁川宮町に於て擧動不審の廉を以て仁川署の刑事に取押られ本署に引致拘留中なりしが段々取調の結果彼は松田安太郎又は竹田由松など自稱し到る處犯罪を敢てしたる曲者にて昨年五月大邱に於て窃盜犯により懲役六ヶ月に處せられ出獄後大田に到り博徒の群に投し本年一月中同類數名の者と大格鬪をなし血の雨を降らしなどなしたる事ありて直ちに再び大邱に戾り又もや窃盜を働き京城に逃走し吉野町橋本一楓方に食客となり居たる中の新地笑月樓に至り橋本の名を僞用し金十圓を詐取し五月中仁川に來り某旅館の客引と成り濟し居たるが持て生れし癖は到底直るべきに非ずして京町都亭の酌婦こしゑ（二三）に現を拔かし同旅館の衣類等を窃取し入揚げたる等自白に及びけるが尙彼は釜山に於ても金二百圓の拐帶犯あり他にも餘罪ある曲者なりと云ふ昨日檢事局へ送られたり

●待合は賭博宿

南部署竹村佐藤兩巡查十六日午後十一時頃永樂町一丁目密行中元待合鶴野事中野權助方待合禁止中にも係らず夜中多數男女の笑聲聞ゆるより注意中の處賭博を爲しつゝある模樣に付裏手に廻り室內を窺ひしに愈々賭博なる事判明せしより十七日午前一時三十分踏込みしに本町五丁目三十八番戶元待合月の家事佐藤次郎妻佐藤もと（二七）本町一丁目裏通り元待合春日內居住橋本福太郎（二九）太平町一丁目五十八統一戶福岡縣人元春日出入高洼倉田松代（二七）光化門通り同高洼山家小糸（二三）及藤野女將增田はな（二七）の五名車座になり花札を以て金錢を賭し博奕の現場なるより取押へ本署に引致司法主任に引渡したるより取調の上佐藤もと及福太郎を各科料金五圓松代小糸を各金十圓はなを金十五圓に即決

●敦盛警察へ駈込

新町及桃山遊廓へ小料理店より移轉したる側の娼妓は前的娼鑑札の既得權を尊重せられし者多く爲めに中には樓主より强制的に娼妓となりたる者多數なる事は耳にせし處なり今其の一例を擧んに島根縣飯石郡三刀屋村生れ須山たつ（二三）は新町大和新町巴樓奈良田方に本年六月十二日より巴樓が長谷川町在住當時酌婦として雇れ親の承諾書なく鑑札を受けずして西洋を强ひられ居りしが間もなく新町に移轉と同時に連れられ來り娼妓の鑑札なきにも强制的に客を取らせしとて自ら南部署に申立たる由なるが南部署に於ては取調の上嚴重なる處罰を爲す可しと

●小娘に迷ふ

原籍石川縣金澤市石坂區四十三番地生れ當時仁川仲町二丁目大石洋服店店員田中辰三郎（二〇）は仁川宮町三丁目公園地下通りの飲食店の娘小松はな（十七）と云ふ未だ肩揚の取れぬ乳臭ひ小娘に魂魄込んだはよけれども少々斗りの月給を店から貢ふたり斗りでは迚も思ふ存分の樂が出來ぬよりフト惡心を起し十五日同店の戶棚に仕舞置きし店員相川勝馬の所有縞セルの單衣洋服代十八圓七十錢を窃取し本町一丁目吉谷商店の店員に賣却し何喰はぬ顏で十七日はなの許で巫山戯て居た處を仁川署の刑事に探知されて前一寸來いと伴れ行かれたり

●目新しき扇子

仁川宮町岡田綿業商店にては扇子に仁川全景をコロタイプ版に付し賣出したるが大好評なりと

●大相撲乘込

當地本町一丁目に於て興行すべき太刀圖見の一行は愈々十八日朝釜山出發同日午後南大門着入京すべしと云ふ初日は十九日と決定したり

▲初日の取組

（八ツ房 四國津）（輪飾 靑葉嶽）（勝田嶽 加勝山）（能登嶽 太刀音）
（天王山 大崎）（玉の川 海山）（塞玉子 敷島）（小野崎 鶴川）
（陳立 五十嵐）（有明 金の花）（鳳 平の石）（土州山 黑瀨川）
（伊勢顏 錄甲）（上ケ汐 國見山）（太刀山 大蛇潟）

●演藝だより

●壽座　歌舞伎座に於て興行每夜大入好人氣を博せし木村猛夫一行は歌舞伎座の道具萬端新調の爲め十八日限り休演し十九日より壽座に於て開演す可し

●浪花館　連夜浪花光廣一行の浪花節



▲十六日午前十時頃南米倉町大黑湯に入浴中の貸家尋ね君に知らせ申す丁度れ咄の四疊半と二疊と三疊と炊事場押入二ヶ所其外餘程便利に新築せし貸家が此大黑湯の筋向ぎチヨッコン入れば左側に在り夫婦森の官吏さんにはタンダニチヨッツ水道付だよ（南米倉町大黑湯の客）▲へへ此のた宜しい廣告術（小僧）▲旭町の何丁目とかに小森とか云ふ何商かがある其家に女中だが何だか知らぬが十七八の娘が二人居る夾れが孰れ劣らぬ美人だ、と云ふ人がある▲夫れが萬綠叢中の紅一點であらうと鷄群の一鶴であらうと馬齡署の中の甘蔗であらうと小野の小町か照手の姬かであらうと更に關つた事はないのだが如何んせん情ない事には風聞子は寢ねば成らぬ事件出來に及んだ幸か不幸か▲話は代つて其家の直ぐ筋向ふに下駄屋とか下宿屋とかがある其家に之は又食客には勿體ない程の男がある此れに其の二人の內の一方が覺召を附けた▲附けられた男眼な氣の爲ぬものと見へて思召を頂戴した上で一人の小町に附いて居る男を授けて四ツ巴入り亂れての情亂の結果や如何▲と三ヶ月前で聞いた儘を（風聞子）▲今回の水道の斷水は天災に起因するとせば致方なき譯と諦めるの外無きも世間傳ふるには既に前夜來斷水と定まり居たるやにて重なる向（官吏の）へは通知を爲し民間には沙汰せざりしとか聞く果して事實なれば不公平である當局たるもの辯解の辭有るや敢て問ふ（一市民）▲僕は京城旭町高地に居る者ですが十七日午前八時より水道斷水で云ふので無餘儀附近の井戶の水を汲みに遣る處が非常に入釜數で鮮人は恐れ惡水を汲んで來る何とか其筋にて分配の方法願ひたし（サーバリ生）▲藤富國太郎氏が牛乳一手販賣する樣に成つて結構な相だが鄙の巷々降雨の節は牛乳受函これ無き家は配達人無責任にて木戶の上や屋根瓦き所などに置く爲め自然雨水等入り呑む事能はず改良されたし（牛乳呑生）▲其改良を待つよりも牛乳受函を調へられるのが近道だと思ひます（小僧）▲新顏中なりし靑木堂も愈々落成移轉して食堂も近々開く相だが待ち遠だ遠くして吳れ江戶ッ奴だ（チンコロ）▲僕は三中井吳服店で二圓五十錢の浴衣を買つたが一度の洗濯でメチャメチャになつた安いものは買うものぢやないナア（安物買）▲水道の斷水朝八時からと云ふに知らせて來たのは九時過ぎ官督は樂なものだが人民には不便なものだ（水道通）

●給仕入用

希望の向は本人來社　京城新報社



朝鮮代理店　京城　新井藥房